

留学体験レポート

21016036 木根渕真奈

私は、2017年9月から12月までの約4カ月間、韓国ソウルにある慶熙大学校の国際教育院に留学してきました。私自身、海外に行くこと自体初めてで、その上その地で4カ月も生活をしなければならぬので、留学に行くまではとても不安でした。ですが、語学力の向上、そして親元を離れて生活することで人間的にも成長できるのではと思い、留学を決意しました。その留学生活の中で印象に残ったことをいくつか綴りたいと思います。

まずは食事についてです。とにかく辛いものが多くて慣れるまでは大変でした。辛いものもありますが、最初のうちはどれなら辛いのか分からず、キンパばかり食べていました。ですが、生活していくにつれて辛いものも分かるようになり、辛いものへの耐性もついて楽しく食事できるようになりました。

次にトイレについてです。韓国も最近ではトイレットペーパーを流せるトイレが増えてきていますが、今でも流せないトイレのほうが多いのが事実です。最初の頃はゴミ箱に捨てることに対して抵抗がありましたが、だんだん慣れていきました。

韓国で生活していく上で欠かせないWi-Fiですが、正直寄宿舍のWi-Fiはあまりよくありませんでした。部屋によって違いはあったようですが、夜などの人が多い時間帯にはほとんど繋がらないこともありました。なので、そのことに対して不安がある人は、個人的に韓国の携帯やWi-Fiを借りるのも一つの手だと思います。

交通の便は新潟よりもよかったです。交通費も安く、出ている本数も多かったのが本当に便利でした。私たちが住んでいた回基（フェギ）から地下鉄で30～40分かかるところまで行っても、1400ウォン（約140円）程度しかかかりません。2000ウォン（約200円）あればある程度どこまででも行くことができたので、週末は友人たちと色々なところへ出かけました。

韓国は日本とは比べ物にならないほどカフェが多いです。あちらこちらに点在していて、街を歩けばコンビニと同じくらい、もしかしたらそれ以上にあるかも知れません。探してみると芸能人やその家族が経営しているカフェもあります。お気に入りのカフェを見つけてみるのもいいかも知れません。

慶熙大学校のトウミ制度で私についたのは、一つ下の男子学生でした。最初はトウミが早口で難しい単語をよく使う上に、私も韓国語に自信がなく思うように意思の疎通ができず、トウミに苦手意識を持っていたこともありましたが、最後にはトウミとたくさん話せるようになりました。振り返ってみると彼はとてもいいトウミだったと思います。

留学前や留学直後は不安が大きく、早く帰りたいという一心でしたが、時間が経つにつれて帰りたくない、まだここにいたいと強く思うようになるほど本当に楽しく充実した4カ月でした。この貴重な経験を活かしてこれからも努力していきたいと思います。